

鉄製品製造に不可欠な高張力鋼板巻取機 国内トップシェアを誇る



UED 株式会社 植田製作所

圧延された金属板を巻き取る機械「テンションリール」と、巻き取る芯「リールドラム製造」において国内随一のシェアを誇り、他の追随を許さない技術力を保持する地域密着オンリーワン企業である。

- 代表者/濱小路 兼生 ●電話/093-761-1431 ●設立/昭和21年12月
- 所在地/〒808-0027 福岡県北九州市若松区北湊町4-1
- 業 種/産業機械設計
- 公式サイト/http://www.ued-mfg.co.jp/



濱小路 兼生 社長

北九州オンリーワン企業に 認定

北九州市では独自の製品や技術、サービスを提供する優れた中小企業を市の看板企業として認定し、情報発信・プロモーションを行う「オンリーワン企業創出事業」を実施している。平成21年に第1回がスタートし、以後2年ごとに北九州市内の中小企業がオンリーワン企業として認定されている。5回目となる本年、植田製作所は「高張力化に対応するテンションリール（鋼板巻取機）及びリールドラムの製造技術」でその認定を受け、7月10日北九州市ノベーションギヤラリー（北九州市八幡東区）にて、北橋市長より認定書が授与された。北九州市が看板企業として認めたもので、今

陣頭指揮を執ってきた。「過去幾多の困難を乗り越え、オンリーワン企業として認定されたのは感慨深い。決して平坦な道の前ではなかったが、お客様により良い品質を提供しようとする研鑽を怠らずにやってきたことが今回の認定につながったと思う」と認定式で挨拶している。

創業73年、独自技術を蓄積して飛躍

かつて「鉄は国家なり」と言われてきたが、現在も生活の様々なシーンで絶対に必要不可欠な素材であり、鉄関連産業は日本経済の根幹を成す部分であることに変わりはない。自動車のボディや飲料缶、家電製品、ビル、住宅など身近な製品に使用される金属は、鉄、アルミニウム、ステンレスなどその材質に関わらず、「圧延」によって薄く延ばされた



圧延ライン用テンションリール



テンションリール用ギアボックスユニット

後展示会出展支援などの関連施策を集中的に行い、その成長を支援することになる。

濱小路社長は昭和43年に入社。一貫して営業畑を歩き、平成18年4代目社長に就任して以来

かつて「鉄は国家なり」と言われてきたが、現在も生活の様々なシーンで絶対に必要不可欠な素材であり、鉄関連産業は日本経済の根幹を成す部分であることに変わりはない。自動車のボディや飲料缶、家電製品、ビル、住宅など身近な製品に使用される金属は、鉄、アルミニウム、ステンレスなどその材質に関わらず、「圧延」によって薄く延ばされた板状の金属を加工することで行われる。この板状の金属をコイル状に巻き取る機械が「テンションリール」で、金属加工にはなくてはならない工作機械である。中でも国内で生産されているピラミッド型テンションリールでは、80%以上のシェアを誇る「オン

リーワン企業」となっている。同社の前身は明治23年、大阪市で創業した植田歯輪工場。昭和21年株式会社植田歯車工場として若松に移転し法人化した老舗で、今年創業73年を迎える。

転機となったのは昭和60年のプラザ合意後に進んだ円高不況による大手企業のコスト削減である。大手企業はそれまで自社で作っていたテンションリールを外注するようになり、優れた減速機を製造していた植田製作所へ引き合いがくるようになった。つまり大手製造業が内製から外注へシフトした機会を捉え、その受け皿となることで固定化した受注を獲得し、成長を遂げた。

一貫通貫で製造できる 唯一の存在で ブランド確立へ

植田製作所の製造する機械はすべて大手メーカーからの注文に合わせてつくると注品（オーダーメイド）である。メーカーの注文内容はその都度異なるうえ、例えばリールドラム面の均一性等は100分の1ミリ単位の正確性が要求されるなど厳しい。北九

州市が創設した、卓越した技能を持つ技術者を認定し表彰する「北九州マイスター」は、大手企業の社員が大部分を占める中、平成27年に同社の社員が認定される等、技術レベルの高さを物語っている。すでに社内にも「マイスター制度」を導入しており、熟練の先輩技術者から若手へ技術を伝承する職場づくりに抜かりはない。

同社がトップシェアを維持しているのは、こうした個々の高い技能・技術を蓄積してきたことに加えて、テンションリール製造における全工程（設計から加工・組立・検査まで）を一貫して行うシステムを確立していることにある。これによって各工程の社員が同じイメージと認識を共有しながらモノづくりに取り組み、短納期、高品質を実現してきた。

長年にわたり提供してきた製品は国内でライバルとなる企業がほとんどなくなっており、過去他社で導入した機械の修理を頼まれることもある。濱小路社長は「近年海外からも特命で注文が来るようになりましたが、今後も技術力を高め、二層の信頼を得るようブランド力を構築していきたい」と熱く語った。